

## 第8章 諏訪地域の若者の就業状況 —長野市との比較—

### 1. はじめに

本調査では長野県内の「長野市」と「諏訪地域」（諏訪市・岡谷市・茅野市）の2地域を対象に調査を行っている。長野市は「善光寺平」と呼ばれる、山の多い長野県内でも比較的大きな平野部に位置し、県庁所在地である。また新幹線の停車駅もあることから東京までは2時間未満で行くことができ、そのためか大都市に本社を置く大企業の営業所といった拠点多くみられる。これに対して諏訪地域は周囲を山に囲まれた、諏訪湖のある小さな盆地がその中心となっている。精密機械製造業を中心に多くの中小製造業が集積しているが、他方で温泉や高原といった自然にも恵まれているため、観光産業を中心としたサービス業も盛んな地域である。また長野市・諏訪地域のいずれも地域連帯が強いが（詳しくは第9章参照）、特に諏訪地域は地理的な理由や「御柱」に代表される伝統からか、この地域密着がより強い地域である。

さらに2007年度の長野県全体の有効求人倍率が1.14倍（全国平均は1.02倍）であったが、今回の調査対象地域である上諏訪市、茅野市、岡谷市を所管する諏訪公共職業安定所の発表によれば、同年度の諏訪地域の有効求人倍率は1.33倍と、全国平均はもとより長野県全体の倍率を上回っていた。

そこで本節では地理的にも地域文化的にも東京との大きな差異が予想される「諏訪地域」に焦点をあて、長野市での調査結果と比較しながら、「雇用を吸収できるだけの産業が存在」し、かつ「地域の結束が強い」諏訪地域の若者の就業状況を明らかにしたい。

### 2. 長野県の若者の就業状況のレビュー

ところでここでもう一度、長野県の若者の就業状況を確認しておこう。その詳細は第6章で詳しく述べているため、ここではその一部を簡単に紹介するにとどめる。その特徴は以下の4つにまとめることができる。

第一に長野県では正社員になることが当たり前であり、それ以外の働き方は「本流」ではないようである。これは初職であろうと現職であろうと同じであり、その結果、「学校卒業（中退）直後の就業状態」（以下、初職の雇用形態と記す）と「現在の就業状態」（以下、現職の雇用形態と記す）のいずれでも、東京よりも正社員が多くなっている（図表8-1参照）。

図表 8-1 学校卒業（中退）直後と現在の就業状態（長野県と東京の比較）

			(%)						
			正社員	公務員	アルバイト・ パート	非正規労働 その他の	家族従業・ 自営業	無職	無回答・ その他
初職	2006年 東京都	20～24歳	46.1	1.2	32.5	5.9	2.0	10.6	1.8
		25～29歳	58.0	1.4	23.0	6.8	2.5	7.2	1.0
	長野県	20～24歳	59.8	4.9	20.5	5.3	0.8	8.7	0.0
		25～29歳	66.4	3.4	14.4	6.4	0.9	7.3	1.2
現職	2006年 東京都	20～24歳	48.5	1.4	34.1	7.9	2.3	4.7	1.2
		25～29歳	56.6	1.9	20.7	10.6	6.6	2.7	0.7
	長野県	20～24歳	62.5	4.2	17.4	10.2	1.1	4.2	0.4
		25～29歳	63.6	4.0	16.5	9.5	4.6	1.8	0.0

第二は雇用形態に「学歴」と「卒業か中退か」という二つの要因が大きな影響力を持っている点である。なお現職の決定にあたっては上記の二つの要因に加えて初職の雇用形態が影響している。すなわち、初職の雇用形態が正社員であった人材は約8割が現職でも正社員であり、反対に非正社員・派遣社員であった場合は半数以上が現職でも非正社員である（図表 8-2 参照）。

図表 8-2 学校卒業（中退）直後と現在の就業状態

			(%)						
			正社員	非正社員・ 派遣社員	自営・ 家族従業	無職	その他	不明	合計 (件)
初職の 雇用 形態	合計		71.8	19.0	1.1	7.4	0.5	0.2	1000
	性別・ 学歴別	男性高校以下	66.3	22.9	2.0	8.3	0.5	0.0	205
		男性短大専門高専	74.0	16.7	0.0	8.7	0.7	0.0	150
		男性大学以上	78.5	12.9	0.0	8.0	0.0	0.6	163
		女性高校以下	68.5	23.0	1.7	5.1	1.7	0.0	178
		女性短大専門高専	74.9	18.3	1.8	4.6	0.0	0.5	219
		女性大学以上	67.9	17.9	0.0	14.3	0.0	0.0	84
	性別・ 卒業 中退別	男性卒業	77.2	15.9	0.6	6.1	0.0	0.2	479
		男性中退	10.5	44.7	2.6	36.8	5.3	0.0	38
		女性卒業	75.1	17.2	1.5	5.3	0.7	0.2	453
女性中退		10.7	64.3	0.0	25.0	0.0	0.0	28	
現職の 雇用 形態	合計		67.7	26.7	3.1	2.2	0.2	0.1	1000
	性別・ 学歴別	男性高校以下	72.7	18.5	5.9	2.0	0.5	0.5	205
		男性短大専門高専	80.7	14.7	0.7	4.0	0.0	0.0	150
		男性大学以上	87.1	10.4	0.6	1.8	0.0	0.0	163
		女性高校以下	44.4	48.9	3.4	2.8	0.6	0.0	178
		女性短大専門高専	60.3	34.2	4.1	1.4	0.0	0.0	219
		女性大学以上	63.1	33.3	2.4	1.2	0.0	0.0	84
	性別・ 卒業 中退別	男性卒業	82.3	13.2	2.3	1.9	0.2	0.2	479
		男性中退	47.4	34.2	7.9	10.5	0.0	0.0	38
		女性卒業	55.6	38.9	3.8	1.5	0.2	0.0	453
		女性中退	42.9	50.0	0.0	7.1	0.0	0.0	28
	初職	正社員	77.7	18.9	1.9	1.0	0.3	0.1	718
		非正社員・派遣社員	42.6	51.1	2.6	3.7	0.0	0.0	190

第三は長野県全体では労働時間をみると東京に差はないものの、長野県の年収は低く、結果として単位当たり賃金は低い。また長野県内で比較してみると、高学歴者や男性卒業者の単位当たり賃金は高く、対して現職が非正社員・派遣社員の場合はもちろんのこと、初職が非正社員であっても単位当たり賃金は低い。併せて正社員と非正社員・派遣社員の格差は極めて大きいという特徴がある（図表 8－3 参照）。

図表 8－3 現職の労働時間・年収と単位あたり賃金

		週労働時間の平均値 (時間)【A】	年収の平均値 (万円)【B】	単位あたり賃金 (万円)【B】÷【A】
2006年 東京都	20～24歳	45.1	229.9	5.1
	25～29歳	48.4	293.0	6.1
長野県	20～24歳	45.8	207.4	4.5
	25～29歳	44.8	236.6	5.3
長野県全年齢合計		44.7	253.4	5.7
性別・ 学歴別	男性高校以下	48.2	272.6	5.7
	男性短大専門高専	48.9	271.0	5.5
	男性大学以上	49.2	363.4	7.4
	女性高校以下	39.3	186.8	4.8
	女性短大専門高専	40.3	199.1	4.9
	女性大学以上	42.8	243.5	5.7
性別・ 卒業 中退別	男性卒業	49.0	307.0	6.3
	男性中退	45.6	233.6	5.1
	女性卒業	40.7	203.8	5.0
	女性中退	34.9	179.6	5.1
初職	正社員	45.4	266.3	5.9
	非正社員・派遣社員	42.9	205.9	4.8
現職	正社員	48.0	293.1	6.1
	非正社員・派遣社員	36.2	156.1	4.3

第四は現在の望ましい働き方でも、長野県は東京に比べて正社員志向が強い。長野県内でみると、特に男性、高学歴者、卒業者で正社員志向が強くなっている。これは初職や現職が正社員であった場合でも同様である（図表 8－4 参照）。

図表 8-4 現在の望ましい働き方

		(%)									
		自営業・ 自由業	家族従業者 (家の仕事)	アルバイト・ パート	派遣社員	契約社員・ 嘱託	正社員	公務員	その他	働かない/ 専業主婦など	合計 (件)
2006年 東京都	20～24歳	6.1	1.3	21.4	4.1	3.5	57.9	4.4	0.9	0.5	—
	25～29歳	7.9	3.0	13.5	5.4	3.4	60.3	4.7	0.4	1.2	—
長野県	20～24歳	2.3	1.5	12.5	3.4	1.5	72.3	6.1	0.4	0.0	—
	25～29歳	4.9	2.8	13.8	1.5	1.8	67.6	6.4	0.3	0.9	—
長野県全年齢合計		4.0	2.2	13.9	2.4	1.5	69.4	5.6	0.4	0.6	1000
性別・ 学歴別	男性高校以下	7.3	3.4	7.8	2.9	1.0	71.7	5.9	0.0	0.0	205
	男性短大専門高専	4.0	1.3	4.0	2.0	0.7	80.7	6.0	0.7	0.7	150
	男性大学以上	6.1	0.0	2.5	1.2	0.6	79.1	9.2	0.6	0.6	163
	女性高校以下	2.2	3.9	30.9	3.9	1.1	53.4	3.4	1.1	0.0	178
	女性短大専門高専	2.3	2.7	20.5	1.8	2.7	64.8	3.2	0.0	1.8	219
	女性大学以上	0.0	0.0	15.5	2.4	3.6	70.2	8.3	0.0	0.0	84
性別・ 卒業 中退別	男性卒業	6.1	1.5	3.8	2.1	0.6	78.1	7.3	0.4	0.2	479
	男性中退	5.3	5.3	21.1	2.6	0.0	60.5	2.6	0.0	2.6	38
	女性卒業	1.5	2.6	22.7	2.4	2.4	62.7	4.2	0.4	0.9	453
	女性中退	7.1	3.6	35.7	7.1	0.0	42.9	3.6	0.0	0.0	28
初職	正社員	3.6	1.1	11.0	1.5	1.3	74.1	6.3	0.4	0.7	718
	非正社員・派遣社員	5.8	2.6	20.5	4.7	2.6	58.4	4.7	0.5	0.0	190
現職	正社員	3.2	0.6	2.1	0.1	0.4	85.7	7.1	0.1	0.6	677
	非正社員・派遣社員	4.5	0.7	43.1	8.6	4.5	34.8	2.6	0.7	0.4	267

このように長野県の若者は正社員志向が強く、また「高学歴」であること、「卒業」していることの2点が正社員になるための「本流」となっている。反対に学歴が高くない場合、学校を中退した場合には、同じ長野県内の高学歴者や卒業者に比べて、初職において正社員になることが難しくなっている。しかも非正社員から正社員へ転換するためのルートも細いと考えられるため、本流から一度外れた人材がもう一度も本流に戻るためには、大きな困難が伴うものと推測される。

### 3. 初職の雇用形態

まず学校卒業（中退）直後の就業状況を示す図表 8-5 をみてもらいたい。これをみると、長野市では「正社員」が 69.8% に対して諏訪地域では 73.8% とやや多くなっており、対して「非正社員・派遣社員」や「無職」は諏訪地域では少ない。つまりわずかな差ではあるが、諏訪地域のほうが若者の正社員就労が多いことになる。

しかしこれを学歴別にみると、「高校以下」と「専門・短大・高専」に大きな特徴がみられる。長野市ではそれぞれ 62.5%、72.0% であったが、諏訪地域では 70.9%、78.1% と多くなっている。他方で「大学以上」では差がみられないことから、諏訪地域では学歴の高くない

人材をより多く正社員として活用していることがわかる。

つぎに卒業・中退別にみると、「中退者」に特徴がみられる。長野市では中退者の2.9%しか初職で正社員になれなかったが、諏訪地域では19.4%もの中退者が正社員になることができている。卒業者については差がみられないことから、諏訪地域では中退者であっても多く正社員として活用していることがわかる。

続いて性別にみると、「女性」でわずかに差異がみられる。すなわち、長野市では女性の68.1%が正社員になったのに対して、諏訪地域では74.7%が正社員になっている。

このように諏訪地域では、長野市に比べて「学歴が高くない人材」「中退者」「女性」をより多く正社員として雇用していることが明らかになった。

図表 8-5 学校卒業（中退）直後の就業状態（長野市と諏訪地域の比較）

								(%)	
		正社員	非正社員・派遣社員	自営・家族従業	無職	その他	不明	合計(件)	
長野市	合計	<b>69.8</b>	<b>20.2</b>	<b>1.2</b>	<b>8.2</b>	<b>0.4</b>	<b>0.2</b>	500	
	学歴	高校以下	62.5	27.5	1.3	7.5	1.3	0.0	160
		専門・短大・高専	72.0	18.7	1.9	7.5	0.0	0.0	214
		大学以上	75.4	13.5	0.0	10.3	0.0	0.8	126
	卒業・中退	卒業	75.0	16.8	1.3	6.5	0.2	0.2	464
		中退	2.9	62.9	0.0	31.4	2.9	0.0	35
	性	男性	71.4	17.9	0.4	9.5	0.4	0.4	252
女性		68.1	22.6	2.0	6.9	0.4	0.0	248	
諏訪地域	合計	<b>73.8</b>	<b>17.8</b>	<b>1.0</b>	<b>6.6</b>	<b>0.6</b>	<b>0.2</b>	500	
	学歴	高校以下	70.9	19.7	2.2	6.3	0.9	0.0	223
		専門・短大・高専	78.1	16.1	0.0	4.5	0.6	0.6	155
		大学以上	74.4	15.7	0.0	9.9	0.0	0.0	121
	卒業・中退	卒業	77.4	16.2	0.9	4.9	0.4	0.2	468
		中退	19.4	41.9	3.2	32.3	3.2	0.0	31
	性	男性	73.0	18.4	1.1	7.1	0.4	0.0	267
女性		74.7	17.2	0.9	6.0	0.9	0.4	233	

#### 4. 初職の継続状況

それでは若者の初職の継続状況はどうなっているのか。図表 8-6 をみると、初職を継続している若者は長野市で54.6%、諏訪地域で57.8%と、わずかに諏訪地域で多いものの、大きな差異があるとはいえない。

しかしこれをもう少し詳しくみてみよう。まず学歴別では、高校以下で長野市の42.5%に対して諏訪地域では55.9%と、初職を継続している若者が多くなっている。また卒業・中退別にみても中退者で長野市の31.3%に対して諏訪地域では47.4%と多い。さらに初職の雇用形態別にみると非正社員・派遣社員で長野市の47.4%に対して諏訪地域では60.6%と多くなっている。最後に性別でみると、男性では長野市の57.4%に対して諏訪地域では65.2%と多くなっている。このように女性、学歴の高くない若者、中退者、初職を非正社員・派遣社員でスタートさせた若者といった、本流ではない人材の定着が高いという特徴がみられる。

図表 8-6 初職の継続状況（長野市と諏訪地域の比較）

		長野市			諏訪地域		
		勤務を継続	転職	合計 (件)	勤務を継続	転職	合計 (件)
合計		54.6	45.4	414	57.8	42.2	424
学歴	高校以下	42.5	57.5	120	55.9	44.1	179
	専門・短大・高専	53.8	46.2	182	51.8	48.2	139
	大学以上	68.8	31.3	112	68.6	31.4	105
卒業・ 中退	卒業	55.5	44.5	398	58.4	41.6	404
	中退	31.3	68.8	16	47.4	52.6	19
初職	正社員	55.6	44.4	349	57.5	42.5	369
	非正社員・派遣社員	47.4	52.6	38	60.6	39.4	33
性	男性	57.4	42.6	216	65.2	34.8	227
	女性	51.5	48.5	198	49.2	50.8	197

## 5. 現職の雇用形態

図表 8-7 は現職の雇用形態を示したものである。これをみると長野市では正社員が 64.6% に対して諏訪地域では 70.8% と多くなっている。反対に非正社員・派遣社員は諏訪地域のほうが少なく（24.2%）、諏訪地域ではより多くの若者が非正規労働ではなく正社員として就労している。

これを学歴別にみてみよう。まず正社員だが、高校以下と専門・短大・高専では長野市の 51.3%、66.4% に対して諏訪地域では 65.5%、71.6% と多くなっている。特に高校以下では諏訪地域が約 14 ポイントも上回っている。また卒業・中退別にみると、長野市では中退者の約 1/3 しか現在正社員として働くことができていないが（37.1%）、諏訪地域では 54.8% と半分以上が正社員として働いている。続いて初職の雇用形態別にみると、初職で非正社員・派遣社員だった場合、長野市では約 1/3 が現在正社員として働いているに過ぎないが（36.6%）、諏訪地域では約 1/2 が正社員として働いている。最後に性別でみると、男女ともに諏訪地域のほうが正社員が多いが（81.6%、58.4%）、特に女性で長野市を大きく上回っている。

このように、諏訪地域では長野市に比べて、初職の場合と同様に「学歴の低い人材」、「中退者」、「女性」を正社員として活用する傾向が強くなっている。さらに初職が非正社員・派遣社員であった人材も正社員として活用していることがわかった。

図表 8-7 現在の就業状況（長野市と諏訪地域の比較）

		正社員	非正社員・派遣社員	自営・家族従業	無職	その他	不明	合計(件)	
長野市	合計	64.6	29.2	3.4	2.8	0.0	0.0	500	
	学歴	高校以下	51.3	41.9	4.4	2.5	0.0	0.0	160
		専門・短大・高専	66.4	25.2	4.7	3.7	0.0	0.0	214
		大学以上	78.6	19.8	0.0	1.6	0.0	0.0	126
	卒業・中退	卒業	66.8	27.2	3.7	2.4	0.0	0.0	464
		中退	37.1	54.3	0.0	8.6	0.0	0.0	35
	初職	正社員	75.9	19.8	2.9	1.4	0.0	0.0	349
		非正社員・派遣社員	36.6	56.4	2.0	5.0	0.0	0.0	101
	性	男性	77.4	17.1	2.8	2.8	0.0	0.0	252
		女性	51.6	41.5	4.0	2.8	0.0	0.0	248
諏訪地域	合計	70.8	24.2	2.8	1.6	0.4	0.2	500	
	学歴	高校以下	65.5	26.0	4.9	2.2	0.9	0.4	223
		専門・短大・高専	71.6	27.7	0.0	0.6	0.0	0.0	155
		大学以上	79.3	16.5	2.5	1.7	0.0	0.0	121
	卒業・中退	卒業	71.8	24.1	2.4	1.1	0.4	0.2	468
		中退	54.8	25.8	9.7	9.7	0.0	0.0	31
	初職	正社員	79.4	18.2	1.1	0.5	0.5	0.3	369
		非正社員・派遣社員	49.4	44.9	3.4	2.2	0.0	0.0	89
	性	男性	81.6	12.7	2.6	2.2	0.4	0.4	267
		女性	58.4	37.3	3.0	0.9	0.4	0.0	233

## 6. 現在の職種

現職における職種を示す図表 8-8 をみると、諏訪地域では「サービスの仕事」が 16.8% と、長野市の 12.6% よりもやや多くなっている。これは冒頭でも触れたとおり、諏訪地域では観光産業が盛んなためであろう。対して「専門・技術的な仕事」は 20.0% と、長野市の 27.8% よりも少なくなっている。

これをもう少し詳しくみてみよう。まず性別にみると、諏訪地域では男女とも専門・技術的な仕事が少ない（23.2%・16.5%；長野市は 29.4%・26.1%）。代わりに男性についてはサービスの仕事（15.1%；長野市は 7.3%）、女性については販売・営業の仕事（17.4%；長野市は 12.4%）と生産工程・建設の仕事（9.6%；長野市は 6.2%）がやや多くなっており、雇用の吸収職種となっている。

続いて学歴別にみると、専門・技術的な仕事は専門・短大・高専では長野市の 34.0% に対して諏訪地域では 25.3% と少ない。他方でサービスの仕事は長野市で 12.6% に対して諏訪地域では 22.7% と多くなっている。つまり諏訪地域では専門・短大・高専という学歴の場合にはサービス関連職種で多くの雇用が吸収されていることになる。また大学以上では販売・営業の仕事（13.4%；長野市は 22.6%）や事務の仕事（21.8%；長野市は 27.4%）が少なく、生産工程・建設の仕事が多い（9.2%；長野市は 4.0%）。

さらに卒業中退別にみると、諏訪地域の卒業生では専門・技術的な仕事が少ないが（20.0

％；長野市は 28.9％）、代わりにサービスの仕事（16.7％；長野市は 12.6％）や生産工程・建設の仕事（16.5％；長野市は 13.0％）が多くなっている。他方中退者では販売・営業の仕事（17.9％；長野市は 31.3％）や生産工程・建設の仕事（21.4％；長野市は 31.3％）が少ないが、反面、専門・技術的な仕事（17.9％；長野市は 12.5％）やサービスの仕事（17.9％；長野市は 12.5％）が多くなっている。

最後に現職の雇用形態別にみると、諏訪地域の正社員では専門・技術的な仕事（22.6％；長野市は 32.8％）が少なく、対してサービスの仕事（11.6％；長野市は 5.9％）や生産工程・建設の仕事（17.5％；長野市は 12.7％）が多くなっている。他方で非正社員・派遣社員の場合には、事務の仕事（10.7％；長野市は 18.5％）が少なく、対して販売・営業の仕事（23.1％；長野市は 15.1％）やサービスの仕事（31.4％；長野市は 25.3％）が多くなっている。

以上を要約すれば、諏訪地域では男性、高学歴者、卒業者、現職で正社員といった本流にある若者の雇用を、製造関連の仕事や観光産業に代表されるサービスの仕事で吸収していると考えられる。これに対し女性や中退者、さらには現職で非正社員・派遣社員である若者の雇用は、販売・営業の仕事やサービスの仕事で吸収しているようである。

図表 8－8 現在の職種（長野市と諏訪地域の比較）

		(%)											
		専門・技術的な仕事	管理的な仕事	事務の仕事	販売・営業の仕事	サービスの仕事	生産工程・建設の仕事	運輸・通信・保安の仕事	農業・漁業の仕事	その他	無回答	合計(件)	
長野市	合計	<b>27.8</b>	<b>0.8</b>	<b>20.4</b>	<b>16.9</b>	<b>12.6</b>	<b>14.2</b>	<b>4.3</b>	<b>0.2</b>	<b>2.5</b>	<b>0.4</b>	486	
	性	男性	29.4	1.2	9.0	21.2	7.3	22.0	6.9	0.4	1.6	0.8	245
		女性	26.1	0.4	32.0	12.4	17.8	6.2	1.7	0.0	3.3	0.0	241
	学歴	高校以下	12.2	0.0	15.4	16.0	19.2	26.3	7.7	0.0	3.2	0.0	156
		専門・短大・高専	34.0	1.5	19.9	14.1	12.6	11.2	3.9	0.5	1.9	0.5	206
		大学以上	37.1	0.8	27.4	22.6	4.0	4.0	0.8	0.0	2.4	0.8	124
	卒業・中退	卒業	28.9	0.9	21.4	15.9	12.6	13.0	4.2	0.2	2.4	0.4	453
		中退	12.5	0.0	6.3	31.3	12.5	31.3	3.1	0.0	3.1	0.0	32
	現職	正社員	32.8	1.2	21.4	18.0	5.9	12.7	5.0	0.3	2.5	0.3	323
		非正社員・派遣社員	17.1	0.0	18.5	15.1	25.3	17.1	3.4	0.0	2.7	0.7	146
諏訪地域	合計	<b>20.0</b>	<b>1.4</b>	<b>18.8</b>	<b>17.6</b>	<b>16.8</b>	<b>16.8</b>	<b>2.5</b>	<b>0.0</b>	<b>3.3</b>	<b>2.9</b>	489	
	性	男性	23.2	1.9	9.3	17.8	15.1	23.2	4.2	0.0	2.7	2.7	259
		女性	16.5	0.9	29.6	17.4	18.7	9.6	0.4	0.0	3.9	3.0	230
	学歴	高校以下	7.4	0.5	19.1	20.9	18.1	25.1	4.7	0.0	2.3	1.9	215
		専門・短大・高専	25.3	1.3	16.2	15.6	22.7	11.0	0.0	0.0	3.2	4.5	154
		大学以上	36.1	3.4	21.8	13.4	6.7	9.2	1.7	0.0	5.0	2.5	119
	卒業・中退	卒業	20.0	1.5	19.6	17.6	16.7	16.5	1.7	0.0	3.3	3.0	460
		中退	17.9	0.0	7.1	17.9	17.9	21.4	14.3	0.0	3.6	0.0	28
	現職	正社員	22.6	2.0	21.2	16.1	11.6	17.5	2.3	0.0	3.1	3.7	354
		非正社員・派遣社員	14.0	0.0	10.7	23.1	31.4	14.0	1.7	0.0	4.1	0.8	121

## 7. 現職の労働時間と年収

週労働時間の平均、年収の平均、単位当たり賃金のそれぞれを示す**図表 8-9**をみてみよう。これをみると、長野市と諏訪地域で労働時間に差はない。しかし諏訪地域に焦点をあてると、性別では男性（49.1 時間）、学歴別では大学以上（48.1 時間）、卒業中退別では卒業者（45.0 時間）、初職と現職の雇用形態別では正社員（45.4 時間、48.2 時間）、といった上述の本流にある若者の労働時間は長野市よりも長くなっている。また年収をみると、長野市の 257.6 万円に対して諏訪地域では 249.2 万円と少ないが、男性、高学歴者、卒業者、初職や現職が正社員である若者といった、本流にある若者の年収は高くなっている。これは本流の若者に正社員以外の働き方をするものが少ないためであろう。

以上の労働時間と年収を用いて、それぞれの単位当たり賃金をみてみよう。性別にみると、女性では長野市・諏訪地域とも 5.0 だが、男性に対しては長野市の 6.4 に対して諏訪地域では 6.0 と低い。学歴別にみると、長野市・諏訪地域とも高校以下では 5.3 と変わらない。しかしどちらも大学以上に対しては特別な対応を見せており、その単位当たり賃金は他よりも非常に高くなっている。ただし諏訪地域の大学以上の単位あたり賃金は 6.5 と、長野市の 7.2 よりも低い。

つぎに初職で非正社員・派遣社員だった若者に対しては、長野市と諏訪地域のいずれも 4.8 と差はないものの、正社員だった若者では諏訪地域のほうが低くなっており（長野市 6.1、諏訪地域 5.7）、さらにまったく同じ傾向が、現職の雇用形態別にみた場合にもあらわれている（非正社員・派遣社員：長野市 4.3、諏訪地域 4.3、正社員：長野市 6.4、諏訪地域 5.9）。さらには卒業中退別にみると、中退者に対しては長野市の 4.9 に対して諏訪地域では 5.4 と高いが、反面卒業者に対しては 5.6 と長野市の 5.8 よりも低くなっている。

以上からいえることは、諏訪地域では一般に長野市よりも年収レベルが低いものの、その要因は本流にある若者に対する年収を低く抑えているからである。他方で「本流から外れている若者」に対する年収は長野市と差を設けておらず、場合によっては長野市を上回るケースもみられた。すなわち、諏訪地域は「本流から外れた人材」に対して「優しい」という特徴を持っているといえよう。

以上の結果から、諏訪地域では**図表 8-10**に示すとおり、長野市に比べて単位賃金の格差が小さくなっている。特に卒業者と中退者間の単位賃金格差は長野市の 1.20 に比べて 1.03 と、ほぼ格差がないに等しくなっている。

図表 8-9 現職の労働時間・年収と単位あたり賃金（長野市と諏訪地域の比較）

		週労働時間の平均値 (時間)		年収の平均値 (万円)		単位あたり賃金 (万円)【B】÷【A】	
		平均値【A】	度数	平均値【B】	度数		
長野市	合計		44.5	486	257.6	486	5.8
	性	男性	48.3	245	309.6	245	6.4
		女性	40.6	241	204.6	241	5.0
	学歴	高校以下	43.3	156	228.7	156	5.3
		専門・短大・高専	44.5	206	235.7	206	5.3
		大学以上	46.1	124	330.3	124	7.2
	卒業・中退	卒業	44.9	453	262.3	453	5.8
		中退	40.0	32	195.5	32	4.9
	初職	正社員	45.3	344	274.4	344	6.1
		非正社員・派遣社員	42.7	96	206.2	96	4.8
現職	正社員	47.8	323	304.9	323	6.4	
	非正社員・派遣社員	37.0	146	159.3	146	4.3	
諏訪地域	合計		44.9	489	249.2	489	5.6
	性	男性	49.1	259	292.9	259	6.0
		女性	40.1	230	200.1	230	5.0
	学歴	高校以下	44.6	215	235.8	215	5.3
		専門・短大・高専	42.7	154	217.4	154	5.1
		大学以上	48.1	119	314.2	119	6.5
	卒業・中退	卒業	45.0	460	251.1	460	5.6
		中退	42.0	28	227.0	28	5.4
	初職	正社員	45.4	364	258.6	364	5.7
		非正社員・派遣社員	43.2	87	205.6	87	4.8
現職	正社員	48.2	354	282.3	354	5.9	
	非正社員・派遣社員	35.2	121	152.3	121	4.3	

図表 8-10 長野市と諏訪地域の単位賃金の差

長野市		諏訪地域
1.27	性差による格差	1.20
1.36	学歴差による格差	1.24
1.20	卒業中退の差による格差	1.03
1.26	初職の違いによる格差	1.19
1.48	現職の違いによる格差	1.35

## 8. 現在の望ましい働き方

それでは現在の望ましい働き方はどうだろうか。図表 8-11 をみると、諏訪地域では「非正社員・派遣社員」が 20.0% とやや多いという特徴がみられる。

これを性別にみると、諏訪地域では女性で非正社員・派遣社員が多く（31.3%）、また学歴別では専門・短大・高専と大学以上で多くなっている（22.6%・13.2%）。さらに卒業中退別では卒業者（19.2%）が、初職と現職の雇用形態別では非正社員・派遣社員（31.5%・66.9%）が、それぞれ現在の望ましい働き方として非正社員・派遣社員をあげている。

以上から考えると、諏訪地域では女性の働き方として、正社員ではなく非正社員・派遣社員として働くという意識が強いと考えられよう。そこでは学歴や卒業中退、さらにはこれま

でのキャリアは関係なく、伝統的な雇用慣行として女性は非正規労働という意識が残っているのかもしれない。

図表 8-11 現在の望ましい働き方（長野市と諏訪地域の比較）

		自営・ 家族従業	非正社員・ 派遣社員	正社員	無職	その他	合計 (件)	
長野市	合計	<b>7.6</b>	<b>15.6</b>	<b>76.0</b>	<b>0.4</b>	<b>0.4</b>	500	
	性	男性	9.5	5.6	84.5	0.0	0.4	252
		女性	5.6	25.8	67.3	0.8	0.4	248
	学歴	高校以下	12.5	24.4	62.5	0.0	0.6	160
		専門・短大・高専	6.1	14.0	78.5	0.9	0.5	214
		大学以上	4.0	7.1	88.9	0.0	0.0	126
	卒業・ 中退	卒業	7.1	14.2	77.8	0.4	0.4	464
		中退	14.3	31.4	54.3	0.0	0.0	35
	初職	正社員	6.3	12.0	80.8	0.6	0.3	349
		非正社員・派遣社員	9.9	24.8	64.4	0.0	1.0	101
現職	正社員	4.3	0.9	94.1	0.6	0.0	323	
	非正社員・派遣社員	8.2	47.3	43.2	0.0	1.4	146	
諏訪地域	合計	<b>4.8</b>	<b>20.0</b>	<b>74.0</b>	<b>0.8</b>	<b>0.4</b>	500	
	性	男性	6.0	10.1	82.8	0.7	0.4	267
		女性	3.4	31.3	63.9	0.9	0.4	233
	学歴	高校以下	5.8	22.0	71.7	0.0	0.4	223
		専門・短大・高専	3.9	22.6	71.6	1.9	0.0	155
		大学以上	4.1	13.2	81.0	0.8	0.8	121
	卒業・ 中退	卒業	4.7	19.2	75.0	0.6	0.4	468
		中退	6.5	32.3	58.1	3.2	0.0	31
	初職	正社員	3.3	15.4	79.9	0.8	0.5	369
		非正社員・派遣社員	6.7	31.5	61.8	0.0	0.0	89
現職	正社員	3.4	4.2	91.5	0.6	0.3	354	
	非正社員・派遣社員	1.7	66.9	30.6	0.8	0.0	121	

## 9. おわりに

最後に本節をまとめてみよう。長野県は東京よりも正社員志向が強い地域だが、諏訪地域は特に正社員志向の強い地域であり、実際に多くの若者が初職で正社員として就職し、また現職でも正社員として働いている。これは諏訪地域が長野市に比べて、「女性」、「学歴の不高くない人材」、「中退者」といった正社員化が進んでいない若者を積極的に正社員として活用しているためである。つまり長野県における「正社員であるための本流」にない若者に対して「優しい」地域であるといえよう。

これは初職の継続状況にも表れており、本流にある若者の継続状況は長野市と差はないものの、学歴が高くない若者、中退した若者、初職で非正社員・派遣社員であった若者の初職の継続状況は長野市よりも高い。つまりこれらの人材にとって居心地が良いことが推測される。事実、諏訪地域では全体として男性、高学歴者、初職を正社員でスタートした者、卒業者といった本流に乗る若者の単位当たり賃金は長野市に比べて低いものの、本流から外れた若者の単位当たり賃金は決して低くなく、ケースによっては長野市よりも高い場合もあった。

さらに単位賃金でみた場合の格差が長野市に比べて小さいことも、諏訪地域の特徴といえる。

また諏訪地域では本流にいる若者を製造関連またはサービス関連の仕事で吸収しており、これは諏訪地域で盛んな産業と一致する。他方で本流から外れた若者は同じくサービス関連の仕事の他にも、販売・営業関連の仕事に吸収されている。これは観光産業に代表される土産等の販売職が多いためと推測され、結果として製造業よりも観光産業で多くの若者の雇用を吸収していることが考えられる。

しかし諏訪地域の女性には、非正社員・派遣社員といった非正規労働で働くという意識がやや残っているようである。これには学歴や卒業中退、さらにはこれまでのキャリアは関係していない。